



月刊 労働千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

91.3.15 No. 33657

津田沼の闘う伝統を守りぬき 全強制配転者の原職奪還!

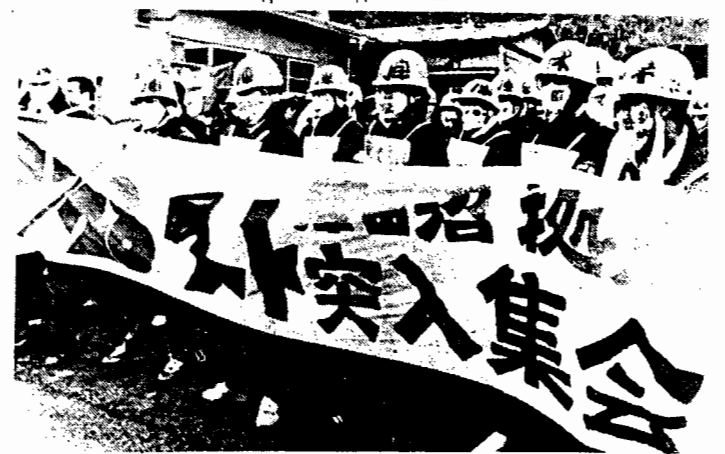
本因 第二波スト

正午以降突入!

すべての組合員のみなさん!
いよいよ、本日、正午を期して、「九一・三ダイ改」強行弾劾の怒りのストライキに、津田沼支部を中心に全力で打ち上がる時がきた。

JR当局は、JR総連革マルと結託して、三二〇〇キロに及ぶ業務移管と、二九名中二〇名が動力千葉組合員という、まさしく動力千葉解体のみを目的とした強制配転を強行した。

しかし、津田沼支部は、この理不尽極まりない攻撃に対して、二・二五ストを皮切りに、本日正午からの第二波ストに、



1100名組合員が火の玉となって闘った分割・民営反対第一波スト

乗務員と検修の仲間が全力で決起し、そして、スト突入後、ただちに支部臨時大会を開催して、強制配転への一大反撃を、討つ手一丸となつてたたきつけようとしている。

この不屈の労働者魂を見よ!
これこそ動力千葉の真骨頂であり、支部結成以来、あらゆる闘いの最先頭に起つてきた津田沼支部の底力である。
高石闘争、八一・三ジェット闘争、分



- ① 運転保安確立を掲げて闘いぬかれた船橋事故闘争
- ② 労農連帯の下、ジェット燃料輸送延長阻止を闘う(8.3.6津田沼)

離独立、動力革マルの四・一七襲撃との闘い、そして、分割・民営化反対の第一波、第二波スト等々、まさに、闘いに次ぐ闘いの連続であり、逆に、この闘いがあったればこそ現在の動力千葉があったと言つても過言ではない。
この、津田沼支部の闘う伝統を守りぬき、さらに、闘う体制の構築へ、全ての組合員が闘いぬこう!

強制配転への 怒りは頂点へ

営業への強制配転が始まってから長い組合員で四年にもなり、その怒りはすでに頂点に達している。

今次ダイ改の重要な課題である強制配転問題に対して、JR千葉支社は、まったく不誠実な対応に終始し、問題の解決に向けた姿勢など微塵も茂感じられないのである。

この、JR当局に対する我々の回答は明白である。断固としてストライキをうちぬくことである。

すべての強制配転者の原職奪還へ三・一五ストを闘い抜こう。

当面するスケジュール

- ・17、21 中江統一行動
- ・22 中江励ます会
- ・23 定期委員会
- ・24 三里塚全国集会